

名古屋市守山区竜泉寺のアライグマ下顎骨に認められた穿通性外傷

曾根 啓子⁽¹⁾ 野呂 達哉⁽¹⁾⁽¹⁾ なごや生物多様性センター 〒468-0066 愛知県名古屋市天白元八事5丁目230番地Penetrating injury of the mandible in the feral raccoon (*Procyon lotor*) from Ryusenji, Moriyama Ward, Nagoya city, central JapanKeiko SONE⁽¹⁾ Tatsuya NORO⁽¹⁾⁽¹⁾ Nagoya Biodiversity Center 5-230, Motoyagoto, Tempaku-ku, Nagoya, Aichi, 468-0066, Japan

Correspondence:

Keiko SONE E-mail: sonekei@hotmail.co.jp

要旨

名古屋市守山区竜泉寺で捕獲された雄のアライグマ (*Procyon lotor* : Field No. 17080401) において、右下顎骨のオトガイ孔付近の骨が外側から内側にかけて貫通し、幅3～4 mmの楕円形の孔が空いているのが観察された。この貫通孔は、アライグマ同士もしくはイヌ (*Canis familiaris*) などの他の動物と争った際、犬歯で噛まれたことによって生じた穿通性外傷であると考えられた。

アライグマ (*Procyon lotor*) は北米が原産地の食肉目アライグマ科に属する中型哺乳類である。日本では全国的に野生化が認められている外来種であり、国の特定外来生物にも指定されている (阿部, 2011)。名古屋市では、主に生活環境被害を軽減する目的で、2000年度から有害鳥獣捕獲の対象種とされ、捕獲されている (曾根ほか, 2018 ; 2019)。また同市では、2011年7月に「名古屋市アライグマ防除実施計画」が策定されており (名古屋市, 2011)、この計画に基づく捕獲も並行して実施されている。2011年度以降、上記2種の捕獲事業によって得られた個体は、なごや生物多様性センターに収容され、市内におけるアライグマの生息状況と被害の実態調査に役立てられている (なごや生物多様性センター, 2012)。また、同施設では捕獲された個体の解剖も行われており、解剖時に採取された頭部や一部の毛皮については、それぞれ頭骨標本、フラットスキン・仮剥製標本が作製され、施設内で永続的な生物資料として保管されている (曾根, 2019)。

今回、保管されている頭骨標本の中に、下顎骨に損傷のあるアライグマ1頭が認められた。この個体は、2017年8月4日に名古屋市守山区竜泉寺で捕獲された雄の成獣 (Field No. 17080401) であった。この個体の右下顎骨では、オトガイ孔付近に外側から内側にかけて骨が貫通し、長径4 mm、短径3 mm程の楕円形の孔が空いているのが観察された。また、孔の内部には化石化が認められ、孔の近くの二歯 (第一小臼歯および第二小臼歯) が喪失していた (図1)。この貫通孔は、個体が生存中に、別の動物から受けた穿通性外傷、特に犬歯による噛み跡である可能性が高いと考えられたので、以下のその理由について考察する。アライグマの下顎骨は比較的厚みがあって頑丈であり、これを貫通させる程の強い力を加えられるのは、アライグマもしくはこれと同程度の大きさの動物ではないかと推察される。アライグマは、成獣になると気性が荒く、攻撃的になることがよく知られている (池田, 2006)。特に、今回個体が捕獲された守山区竜泉寺は、市内で最もアライグマが捕れやすい場所の

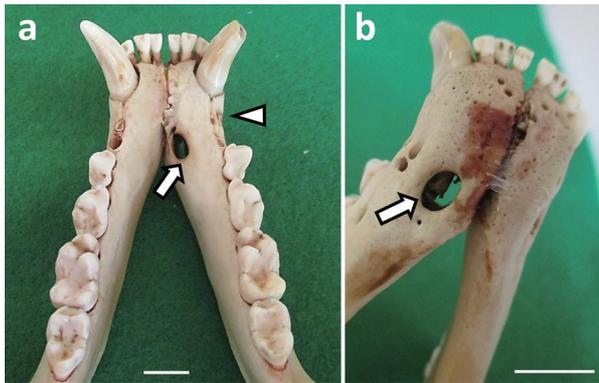


図1. 名古屋市守山区竜泉寺のアライグマ (Field No. 17080401) 下顎骨の (a) 上方面観および (b) 下方面観。右下顎骨の一部が貫通して、長径4 mm、短径3 mm程の楕円形の孔 (矢印) が空いているのが認められた。孔の内部は骨化しており、その付近の二歯 (第一・第二小臼歯) が喪失していた (矢頭) (スケールバー: 1cm)。

一つであり、アライグマの生息にとって好適な環境であると考えられる。このような場所では、縄張りや餌資源をめぐる個体間の争いも激しくなるため、他個体からの攻撃を受ける可能性も高かったと推察される。また、アライグマの永久犬歯は、最大幅が上顎で5.5～7.0 mm、下顎で6.0～6.5 mmであり (Montgomery, 1964)、歯冠が先端に向かって鋭く尖っている。そのため、アライグマの犬歯で骨を噛まれた場合、その部位には最大幅よりもやや小さな円形状の孔が外傷として残ることが予想される。この考えは、下顎骨に観察された貫通孔が幅3～4 mmの楕円形であったという事実とも矛盾しておらず、アライグマの犬歯によって受けた外傷と見なすのが最も妥当であると考えられる。一方、別の可能性として、アライグマを襲って負傷させること (Taylor, 2008) が報告されているイヌ (*Canis familiaris*) による外傷が考えられた。名古屋市のアライグマにおいても、民家の庭先に侵入し、飼い犬を威嚇したり、餌を横取りしたりした例 (曾根ほか, 2018) があることから、両者が接触する機会も少なくないようである。イヌの犬歯の形や大きさはアライグマのものとよく似ているため、噛まれた場合、似たような形状の孔が出来るものと推察される。また、この地域には、ホンダタヌキ (*Nyctereutes procyonoides*) やアカギツネ (*Vulpes vulpes*) など、アライグマと競合する可能性のある別の中型哺乳類も生息している (野呂, 2015)。前者は犬歯のサイズがアライ

グマよりも明らかに小型であるため、加害動物とは考えにくい。後者では類似しているため、可能性はあると考えられる。今回の観察のみでは、外傷を負わせた動物を特定するのは困難であるが、アライグマやイヌなどの中型の食肉目動物と考えてまず間違いないだろう。以上のことから、今回観察された下顎骨の貫通孔は、アライグマ同士もしくはイヌなどの他の動物と争った際に犬歯で噛まれたことによって生じた穿通性外傷であると考えられた。

引用文献

- 阿部 豪. 2011. アライグマ 有害鳥獣捕獲からの脱却. 山田文雄・池田 透・小倉 剛 (編). 日本の外来哺乳類 管理戦略と生態系保全, pp. 139-167. 東京大学出版会, 東京.
- 池田 透. 2006. アライグマ対策の課題. 哺乳類科学, 46: 95-97.
- Montgomery, GC. 1964. Tooth eruption in preweaned raccoons. *Journal of Wildlife Management*, 28: 582-584.
- 名古屋市. 2011. 名古屋市アライグマ防除実施計画. 名古屋市, 名古屋, 7pp.
- なごや生物多様性センター. 2012. 生きものシンフォニー 創刊号. なごや生物多様性センター.
- 野呂達哉. 2015. 哺乳類. 名古屋市の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックなごや2015 動物編, pp. 27-53. 名古屋市環境局環境企画部環境活動推進課, 名古屋.
- 曾根啓子. 2019. なごや生物多様性センターに収集・保管された哺乳類標本を用いた学習支援. 生きものシンフォニー, 28号, なごや生物多様性センター.
- 曾根啓子・子安和弘・織田鉄一. 2018. 名古屋市における野生アライグマ (*Procyon lotor*) の被害状況-2000～2010年度の有害獣捕獲の申請実績を中心に-. *Special Publication of Nagoya Society of Mammalogists*, 20: 12-23.
- 曾根啓子・藤谷武史・子安和弘・織田鉄一. 2019. 愛知県産および埼玉県産の野生アライグマ *Procyon lotor* に認められた歯根の変異. *哺乳類科学*, 59: 61-66.
- Taylor, J. 2008. *WildCare Foster Care Manual: Raccoons*. WildCare, San Rafael, CA, 47pp.